

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
 発行責任者 水野達雄
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
 南会津郡小中学校長協議会

『遊びとスポーツ』

檜枝岐村教育委員会教育長
 平野信之

私は1957年生まれ、少年期の遊びといえば野球だった。春が来て、少しでも早くの思いで、平らな堅雪の所を見つけ、バットで線を引き、遊んだのを思い出す。雪が消えても、山峡の地で野球をする広い場所は校庭と歌舞伎を演じる舞殿の2カ所しかなく、当然に小さい者は舞殿に追いやられた。3～4学年が年長者を中心にチームを組み、自分達で変型グラウンド用のルールを決めゲームをした。審判は居ないので、アウト・セーフの判定でケンカに発展するが、それも想定外ではなく遊びのひとつであったように思う。よほど楽しかったのであろう、日が暮れるまで毎日やった。今は当時と違い、ソフトボールや野球は、保護者や学校の管理下でしか出来ない。チームに入り指導を受け、スポーツとしての専門性を高めている。

文科省の子供の体力・運動能力調査が年末に発表された。伸びる種目と下がる種目の二極化が進んでいて、子どものボール投げと握力が目立って低下しているという。学校現場を見ると、すごい球を投げる子がいるが、ボールを投げたことのない子も増えている状況である。運動をする子としない子の格差も開いているようだ。少年よ、球の投げ方くらいは……、父親も情けない。

いつの頃からだろうか、遊びとスポーツに垣根が出来たのは。そもそも、どちらも体を動かし時間を楽しく過ごすことに変わりはないのに、全部ひっくるめて楽しめばいいと思う。

昼休み校庭から大きな声が聞こえる季節が待ちどおしい。子ども達は元気に駆け回っている。若い教師も一緒だ。うん、実にいい光景だ。

『自慢のほっこり食堂』

福島県教育庁南会津教育事務所次長(業務)
 兼学校教育課長

橋 成美

南会津にはB級グルメを出す自慢の食堂がいくつもあつある。そのため、当事務所では、各学校への訪問の度、どこで昼食をとるかが大いに話題となる。職務にも研修にもそして食にも意欲的な職場である。

「ゆるしてけやれ」「ねっかさすけねえぞ、気にしんなよ」「ようし、まかせろ。こっちでやっからな」これは、ある食堂の働いている人の会話で、はじめは、お嫁さんとお姑さんかと思った。その丁寧さや優しさに驚きだったが、実は、娘さんと母親であるからまた驚きだ。親子とは思えぬ丁寧な言葉遣い、互いに相手を気遣っている温かい言葉。もちろん、調理を主担当している親父さんも女将さんより口数は少ないものの「まかせろ」と言う安心感を感じさせてくれる。その食堂は、そういった言葉や空気があふれており、全く関係のない私たちの心を温かくし「ほっこり」してくれる。本気になって働く者た

ちに人間的な魅力があることは間違いない。「相手を推し量ること、尊重すること、気遣いができること、そして、任せろという大きな器がある」、それがこの食堂の味でもある。その食堂を当事務所では「ほっこり食堂」と命名している。

さて、学校では、子供たちが楽しさとやる気できらきらしている。その中には、救われている子供がいる。「ほっこり」している子供がいる。それは、先生方の笑顔や言葉かけによるものだろう。実は、子供たちだけでなく私も学校に電話した時など「ほっこり」して救われている一人である。

私たち南会津教育事務所も、世界一の「ほっこり」事務所をめざし、域内の各学校や関係機関とチーム力を高め、支え合っていくつもりで、日々健闘中であります。

「ねっかさすけねえ。いつでも任せてやれ。」

*ねっかさすけねえ：何の問題もないこと

南会津がつむぐ 新たな学校教育！
夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成
 ～ 思考力・判断力・表現力等が身についた子どもの育成 ～

確かな学力

算数科コアティーチャーによる授業改善
 南会津町立荒海小学校

本校では、算数科においてコアティーチャーの活用を通して授業改善を図るとともに、児童の学力向上に取り組んでいます。その授業づくりのポイントは以下の3つです。

- 身につけるべき力を明確にした単元づくり
- 児童の追究意欲を引き出す課題提示
- 自分の考えを、根拠を明確にして分かりやすく説明したり、表現し伝え合ったりする話し合い活動

これらの活動により、多くの成果を得ることができました。コアティーチャーの授業を参観したり、一緒に授業を構想・実践したりしたことにより、児童に身につけたい力を明確にした授業が展開されました。また、児童間で意見を交流させる際、教師のコーディネートによって思考過程の可視化・共有化が図られました。さらに、自分の考えを算数的な活動をもとに友達に説明したり、表現し伝え合ったりする姿が多く見られました。



【テトロミノに挑戦】

日常的にも、職員室の中で、算数の話題を通して教職員間のコミュニケーションが増えるなど、先生方のモチベーションも、以前にも増して高まっています。このことは、児童の学力向上につながっていると考えます。

豊かなこころ

子供の心を育てる道徳を目指して
 南会津町立南会津中学校

「今までの日常生活は、ただの毎日の繰り返しだと思っていたけど、もし最後だとわかっていたら、一日一日を大切にしていたらどうだろう。」

これは道徳の授業の中で、生徒が作った詩の言葉です。今までの自分を振り返りこれからの自分を考える、そんな時間を作りたいと願いながら授業を組み立ててい



【公開授業の様子】

ますが、毎回理想通りにいくわけではありません。でも、こんな生徒の言葉があるからこそ、また頑張ろうという気持ちになります。

今年度、本校では「道徳」を現職教育に取り上げ、研究を進めてきました。4人班は、話し合い活動が効果的に進められるように。発表者に体を向けるのは、他の意見を認め合う環境作りのために。資料の精選に努めるのは、生徒の本音を引き出し、振り返りができるように。「ポイント授業参観シート」は、気軽に授業参観ができ、先生方からアドバイスや賞賛をいただくことで授業に張り合いが出てます。このような様々な思いや取組があって、今回の道徳の授業を実践することができました。

公開授業後の生徒との会話です。「緊張したけど、頑張れたよ、先生。」「緊張してたけど、みんな本当に素敵だったよ。」このやりとりが南会津中学校の道徳です。

健やかなからだ

いのち生きいき
 檜枝岐村立檜枝岐小中学校

檜枝岐村の子供たちは、中学校卒業と同時に、全員が親元を離れて生活しなければなりません。親の目の届かぬところでの生活は、人間関係が不安定な中で新たな交友関係が広がり、なかには、SNS等の活用などから、自己の欲求や周りからの誘惑に負け、性に関する事案に巻き込まれてしまうことも予想されます。そこで、本校では「自他の生命を尊重し、家庭や社会の一員として適切な判断や行動選択、意思決定ができる能力や態度を育てる」ことを目標とし、9年間を見通した性に関する指導を行っています。例えば、望まない妊娠をして（させて）しまった後の人生について考えさせたり、有名アイドルの被害事例を取り上げたりすることにより、性に関する事案をより深刻な問題ととらえさせ、安易な行動が人生を大きく変えてしまうことや、誘惑に打ち勝つためには強い意志が必要であることなどについて学ばせています。

故郷を旅立つ「15の春」までに、学んだことを実践し、しっかりと自立できるよう子供の実態や社会の実情に応じた指導を充実させていきたいと考えます。



【性に関する指導】